二ひきの蛙

新美南吉

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑の蛙がいいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙はとうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。

この蛙(かえる)はとびかかるのが得意(とくい)でありました。

黄色の蛙(かえる)はあとあしで砂(すな)をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂(すな)をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙(かえる)は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙(かえる)たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負(しょうぶ)をつける。」

といって、緑の蛙(かえる)は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙（かえる）ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙（かえる）たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱（しもばしら）が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙（かえる）たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしょに、緑の蛙（かえる）が目をさましました。土の上に出てみました。まだほかの蛙（かえる）は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中にむかってよびました。

すると、黄色の蛙（かえる）が、
「やれやれ、春になったか。」
といって、土から出てきました。
「去年（きょねん）のけんか、わすれたか。」
と緑の蛙（かえる）がいいました。
「待て待て。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」
と黄色の蛙（かえる）がいいました。
二ひきの蛙（かえる）は、からだから泥土（どろつち）をおとすために、池（いけ）のほうにいきました。
池（いけ）には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがし

い水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といいました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙(かえる)でも、きげんが
よくなるものであります。

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ
2003年9月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。